

コクサイ - MUGCマスター・トラスト - 短期高利回り社債ファンド 2015-01

ケイマン諸島籍契約型外国投資信託／単位型

米ドル建 米ドル高円安追随クラス受益証券
円建 円高ヘッジ・円安追随クラス受益証券
JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラス受益証券
JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラス受益証券

交付運用報告書

作成対象期間 第3期
(2017年5月1日～2018年4月30日)

その他記載事項
運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト(<http://www.sc.mufg.jp/>)の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

サブ・ファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

管理会社

**ルクセンブルク三菱UFJ
インベスターサービス銀行S.A.**

代行協会員

**三菱UFJモルガン・スタンレー証券
株式会社**

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、コクサイ - MUGCマスター・トラスト - 短期高利回り社債ファンド2015-01(以下「サブ・ファンド」といいます。)は、このたび、第3期の決算を行いました。

サブ・ファンドの投資目的は、新興国を含む世界中の会社が発行する世界の高利回り社債への投資を通じて、高水準のインカムゲインの確保と信託財産の成長を目指すことです。更に、サブ・ファンドは、各クラスレベルにおいて派生商品取引等を行うことにより追加的収益の獲得を目指します。当期につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第3期末		
	1口当たり純資産価格	純資産価額
米ドル建 米ドル高円安追随クラス	103.31米ドル	5,391,040.25米ドル
円建 円高ヘッジ・ 円安追随クラス	9,904円	1,298,849,823円
JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラス	11,982円	261,744,353円
JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラス	11,720円	833,805,633円
第3期		
	騰落率	1口当たり分配金合計額
米ドル建 米ドル高円安追随クラス	1.96%	該当事項はありません。
円建 円高ヘッジ・ 円安追随クラス	0.42%	該当事項はありません。
JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラス	14.47%	該当事項はありません。
JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラス	14.62%	該当事項はありません。

(注1) 1口当たり純資産価格および純資産価額は、財務書類における数値を記載しており、取引日(評価日)付で公表されている1口当たり純資産価格および純資産価額の数値と一致しない場合があります。以下同じです。

(注2) 騰落率は、1口当たり純資産価格に基づき計算しています。以下同じです。

《運用経過》

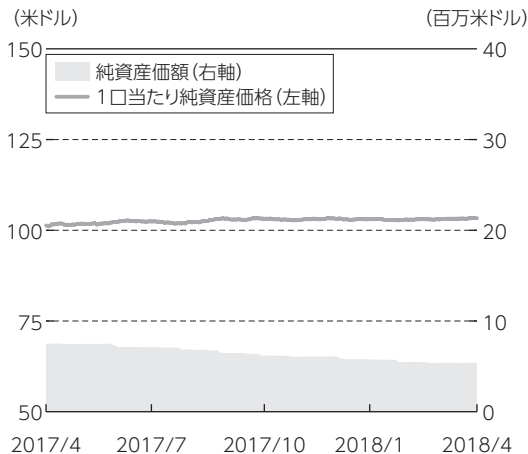
【当期の1口当たり純資産価格等の推移について】

(注1) サブ・ファンドは分配を行わない方針であるため、課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を記載していません。以下同じです。

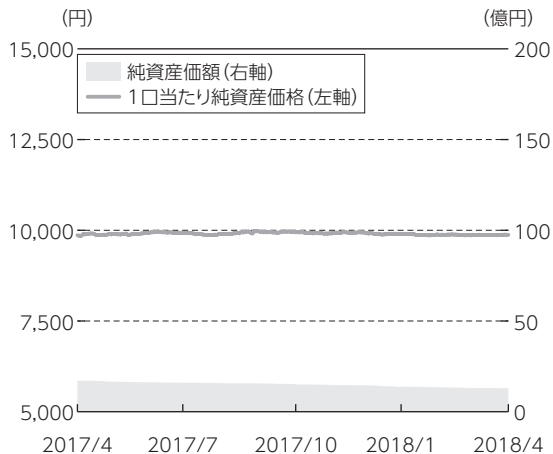
(注2) サブ・ファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) サブ・ファンドにベンチマークは設定されていません。

米ドル建 米ドル高円安追随クラス受益証券



円建 円高ヘッジ・円安追随クラス受益証券



JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラス受益証券



JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラス受益証券



	第2期末の 1口当たり 純資産価格:	第3期末の 1口当たり 純資産価格:	第3期中の 1口当たり分配金合計額:	騰落率:
米ドル建 米ドル高円安追随クラス受益証券	101.32米ドル	103.31米ドル	該当事項はありません。	1.96%
円建 円高ヘッジ・円安追随クラス受益証券	9,863円	9,904円	該当事項はありません。	0.42%
JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラス受益証券	10,467円	11,982円	該当事項はありません。	14.47%
JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラス受益証券	10,225円	11,720円	該当事項はありません。	14.62%

■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因

- ・高利回り社債からの利息収入の積み上げが、受益証券1口当たり純資産価格の上昇要因となりました。
- ・前期末から当期末にかけて、国債利回りの上昇等を受け、高利回り社債の価格が下落したことが、受益証券1口当たり純資産価格の下落要因となりました。
- ・サブファンドの管理報酬等の費用を支払ったことが、受益証券1口当たり純資産価格の下落要因となりました。
- ・円高ヘッジ・円安追随クラスでは、前期末から当期末にかけて、円高(米ドル安)が進行したこと等を受け、派生商品等を活用した為替戦略がマイナスとなったことが、受益証券1口当たり純資産価格の下落要因となりました。
- ・JPX日経400上昇追随型 円ヘッジクラスおよびJPX日経400上昇追随型 円ヘッジなしクラスでは、前期末から当期末にかけて、JPX日経インデックス400(以下「JPX日経400」といいます)が上昇したこと等を受け、JPX日経400に係る派生商品取引がプラスとなったことが、受益証券1口当たり純資産価格の上昇要因となりました。
- ・円高ヘッジ・円安追随クラスでは、為替ヘッジコスト(金利差相当分の費用)や為替に係る派生商品のコストが、受益証券1口当たり純資産価格の下落要因となりました。
- ・JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラスについては、対円で為替ヘッジを行った際のコストが、受益証券1口当たり純資産価格の下落要因となりました。
- ・JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラスについては、円高(米ドル安)が進行したことが受益証券1口当たり純資産価格の下落要因となりました。

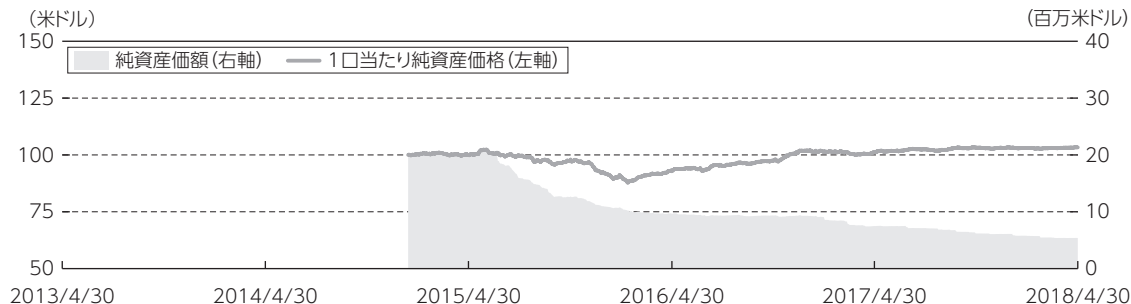
【費用の明細】

項 目	項目の概要	
管理報酬および 管理事務代行報酬	純資産価額の年率0.13%	管理報酬は、信託証書に定める管理会社としての業務の対価として、管理会社に支払われます。管理事務代行報酬は、管理事務代行契約に基づく管理事務代行業務の対価として、管理事務代行业社に支払われます。
保管報酬	合意済の取引手数料の支払、適切な裏付けのある立替費用の払戻しを受けます。	保管報酬は、保管契約に基づくサブ・ファンドの資産の保管業務の対価として、保管会社に支払われます。
投資顧問報酬	純資産価額の年率0.42%	投資顧問報酬は、投資顧問契約に基づく投資顧問業務の対価として、投資顧問会社に支払われます。
投資運用報酬	純資産価額の年率0.42%	投資運用報酬は、投資運用契約に基づく投資運用業務の対価として、投資運用会社に支払われます。
受託報酬	純資産価額の年率0.03% (最低年間10,000米ドル)	受託報酬は、信託証書に基づく受託業務の対価として、受託会社に支払われます。
販売報酬	純資産価額の年率0.60%	販売報酬は、投資者からの申込みまたは買戻請求を管理会社に取り次ぐ等の業務の対価として、日本における販売会社に支払われます。
代行協会員報酬	純資産価額の年率0.10%	代行協会員報酬は、受益証券1口当たり純資産価格の公表を行い、また受益証券に関する目論見書、決算報告書およびその他の書類を日本における販売会社に送付する等の業務の対価として、代行協会員に支払われます。
その他の費用 (当期)	2.45%	サブ・ファンドの設立および終了の費用、投資関連費用、運営費用(弁護士に支払う開示書類の作成・届出業務等に係る報酬および監査人等に支払う監査に係る報酬等)、ならびにその他すべての管理事務費用として支払われます。

(注)各報酬については、有価証券報告書に定められている料率または金額を記載しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額をサブ・ファンドの当期末の純資産価額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

【最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について】

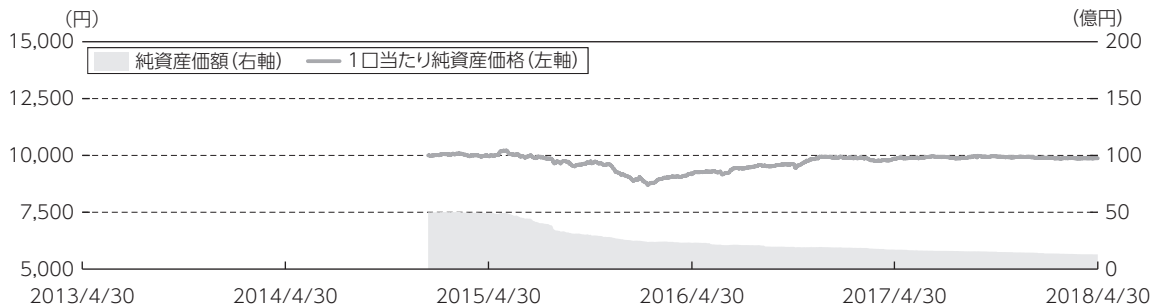
米ドル建 米ドル高円安追随クラス受益証券



	第1期末 2016年4月末日現在	第2期末 2017年4月末日現在	第3期末 2018年4月末日現在
1口当たり純資産価格 (米ドル)	92.83	101.32	103.31
1口当たり分配金額 (米ドル)	-	-	-
騰落率 (%)	-7.17%	9.15%	1.96%
純資産価額 (米ドル)	9,629,816.78	7,488,934.30	5,391,040.25

(注) サブ・ファンドにベンチマークおよび参考指数は設定されていません。以下同じです。

円建 円高ヘッジ・円安追随クラス受益証券



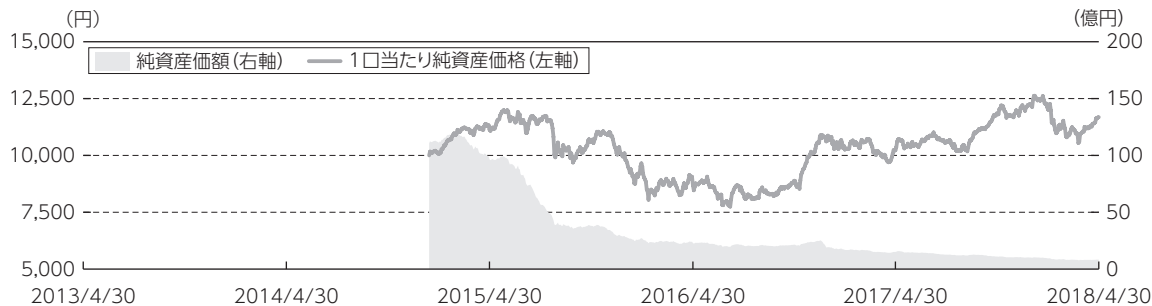
	第1期末 2016年4月末日現在	第2期末 2017年4月末日現在	第3期末 2018年4月末日現在
1口当たり純資産価格 (円)	9,170	9,863	9,904
1口当たり分配金額 (円)	-	-	-
騰落率 (%)	-8.30%	7.56%	0.42%
純資産価額 (円)	2,304,703,173	1,716,682,939	1,298,849,823

JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラス受益証券



	第1期末 2016年4月末日現在	第2期末 2017年4月末日現在	第3期末 2018年4月末日現在
1口当たり純資産価格 (円)	9,275	10,467	11,982
1口当たり分配金額 (円)	-	-	-
騰落率 (%)	-7.25%	12.85%	14.47%
純資産価額 (円)	729,499,730	447,349,720	261,744,353

JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラス受益証券



	第1期末 2016年4月末日現在	第2期末 2017年4月末日現在	第3期末 2018年4月末日現在
1口当たり純資産価格 (円)	8,680	10,225	11,720
1口当たり分配金額 (円)	-	-	-
騰落率 (%)	-13.20%	17.80%	14.62%
純資産価額 (円)	2,295,435,016	1,508,308,354	833,805,633

【投資環境について】

当期の高利回り社債市場は、プラスのリターンとなりました。

期首から2017年10月下旬にかけては、米国企業の業績が概ね堅調であったこと等を背景にスプレッド(国債に対する利回り差)が縮小したこと等から同市場は上昇しましたが、その後は上昇要因と下落要因が入り混じる中、一進一退の展開となり、2017年11月上旬から期末にかけての同市場は概ね横ばいとなりました。

なお、当期において、国債利回りの上昇等を受け債券価格が下落したことはマイナスに影響したものの、利息収入の積み上げ等がプラスに寄与し、市場はプラスのリターンとなりました。

【ポートフォリオについて】

信託期間終了前に満期を迎える短期の債券に投資を行い、当該債券を償還まで保有することを基本戦略とし、信託期間終了時の金利変動リスクの低減を図りました。また、派生商品取引等を行うことにより、追加的収益の獲得を目指しました。

期末時点においては、国・地域別では米国を高位の組入れとしました。セクター別では、エネルギーや消費財(非市況)、消費財(市況)等への投資比率が高めとなりました。格付け別では、BB格への投資比率が高めとなりました。その結果、通信セクター内の一部の銘柄で価格上昇が見られたこと等が受益証券1口当たり純資産価格にプラスに寄与した一方、消費財(市況)セクター内の一部の銘柄で価格下落が見られたこと等が受益証券1口当たり純資産価格にマイナスに影響しました。

米ドル建 米ドル高円安追随クラスおよび円建 円高ヘッジ・円安追随クラスでは、期を通じて派生商品等を活用した為替戦略を構築した結果、円高(米ドル安)が進行したこと等が、受益証券1口当たり純資産価格にマイナスに影響しました。

JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラスおよびJPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラスでは、期を通じてJPX日経400に係る派生商品取引を行った結果、JPX日経400が上昇したこと等が、受益証券1口当たり純資産価格にプラスに寄与しました。

【分配金について】

該当事項はありません。

《今後の運用方針》

●投資環境見通し

高利回り社債市場については、米国をはじめ世界経済の回復が見込まれること等が、同市場の下支え要因になると考えられます。また、多くの発行企業が比較的健全な財務内容を維持していることや、低金利下で借り換え(リファイナンス)を済ませていること等は、同市場にとって好材料になるとみています。このような市場環境を踏まえると、引き続き同市場は魅力的であるとと考えています。

●今後の運用方針

引き続き、新興国を含む海外の高利回り社債への投資を通じて、高水準のインカムゲインの確保と信託財産の成長を目指します。また、派生商品取引等を行うことにより、追加的収益の獲得を目指します。

今後については、信用力が高いにもかかわらず、大手企業と比較して割安に放置されている中堅企業等への投資に妙味があるとみています。また、米国についてはトランプ政権が掲げる経済政策および財政政策が国内景気の押し上げ要因となるとの期待が広がる中、相対的に高い成長が見込まれる本国に対するビジネス依存度が高い企業に対しては、積極姿勢を維持します。業種別では、オンライン販売との競争激化の影響を受けやすい一部の小売銘柄については投資を控えめとする方針です。また、エネルギー・素材セクターについては、業態や信用特性の違い等によって企業ファンダメンタルズの格差が生じやすい環境であることから、今まで以上に銘柄の選択が重要になると考えています。

米ドル建 米ドル高円安追随クラスでは、米ドル(対円)に係る派生商品取引を行い、円高米ドル安時の損失を限定しながら、円安米ドル高が進行した場合の追加的収益の獲得を目指します。

円建 円高ヘッジ・円安追随クラスでは、派生商品等を活用して為替戦略を構築し、円高米ドル安時の損失を低減しながら、円安米ドル高が進行した場合の追加的収益の獲得を目指します。

JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラスおよびJPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラスでは、JPX日経400に係る派生商品取引を行い、JPX日経400下落時の損失を限定しながら、JPX日経400が上昇した場合の追加的収益の獲得を目指します。

《お知らせ》

該当事項はありません。

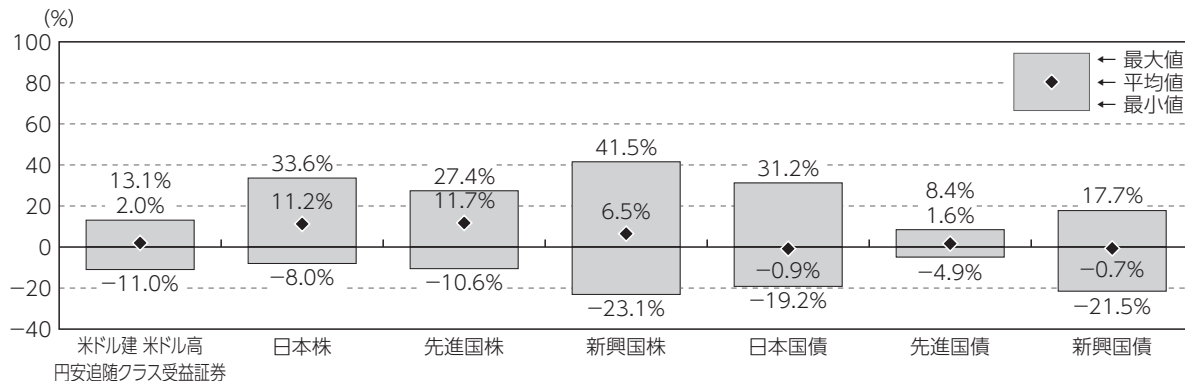
《サブ・ファンドの概要》

ファンド形態	ケイマン諸島籍契約型外国投資信託／単位型
信託期間	サブ・ファンドは、2015年1月16日から運用を開始し、一定の事由により早期に終了する場合を除いて、2020年1月31日に終了します。
運用方針	サブ・ファンドの投資目的は、新興国を含む世界中の会社が発行する世界の高利回り社債への投資を通じて、高水準のインカムゲインの確保と信託財産の成長を目指すことです。更に、サブ・ファンドは、各クラスレベルにおいて派生商品取引等を行うことにより追加的収益の獲得を目指します。
主要投資対象	新興国を含む世界中の会社が発行する世界の高利回り社債
サブ・ファンドの運用方法	<p>①サブ・ファンドは、新興国を含む海外の米ドル建等の高利回り社債を主要投資対象とし、信用リスクに配慮しつつ相対的に利回りが高いと判断される銘柄に投資を行い、高水準のインカムゲインの確保と信託財産の成長を目指します。</p> <p>②サブ・ファンドが投資する高利回り社債等は、サブ・ファンドの信託期間終了前に満期を迎える短期の債券に限り、</p> <p>③「米ドル建 米ドル高円安追随クラス」、「円建 円高ヘッジ・円安追随クラス」、「JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラス」、「JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラス」の4つのクラスから構成されています。</p> <p><米ドル建 米ドル高円安追随クラス> 米ドル(対円)に係る派生商品取引を行い、円高米ドル安時の損失を限定しながら、円安米ドル高が進行した場合の追加的収益の獲得を目指します。</p> <p><円建 円高ヘッジ・円安追随クラス> 米ドル建等の高利回り社債について、派生商品等を活用して為替戦略を構築し、円高米ドル安時の損失を低減しながら、円安米ドル高が進行した場合の追加的収益の獲得を目指します。</p> <p><JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラス／JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラス> JPX日経400に係る派生商品取引を行い、JPX日経400下落時の損失を限定しながら、JPX日経400が上昇した場合の追加的収益の獲得を目指します。</p> <p>JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラスについては、対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。</p> <p>JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラスについては、対円で為替ヘッジを行いません(米ドル以外の通貨建債券に投資する場合は、原則として当該通貨売り米ドル買いの為替取引を行います)。</p>
配分方針	受益者に対する配分は原則として行われず、予定済みです。

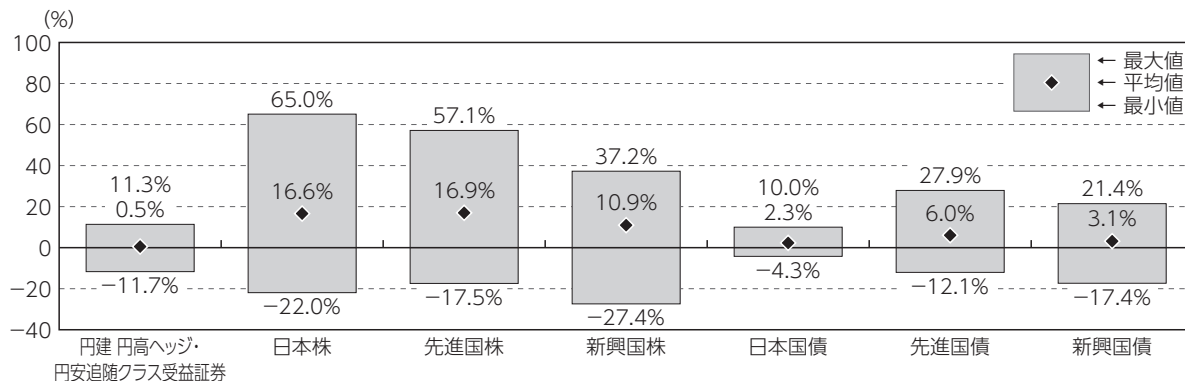
(参考情報)

●サブ・ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

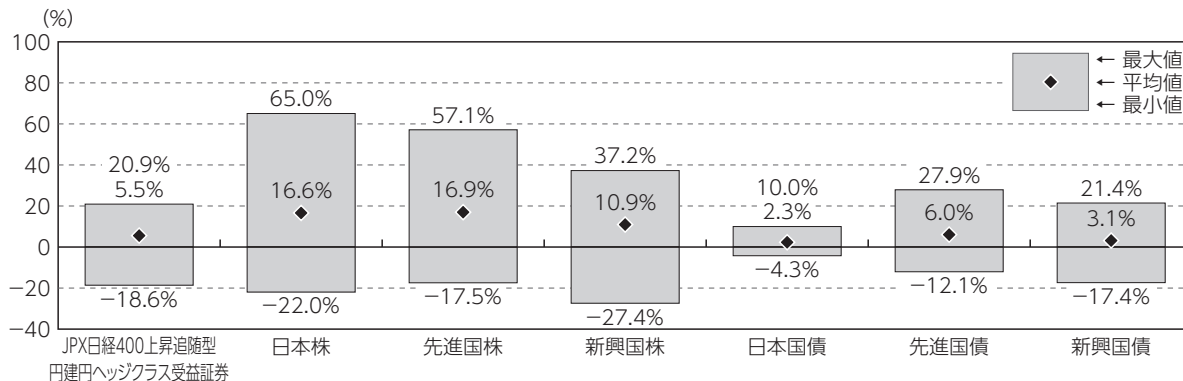
米ドル建 米ドル高円安追随クラス受益証券



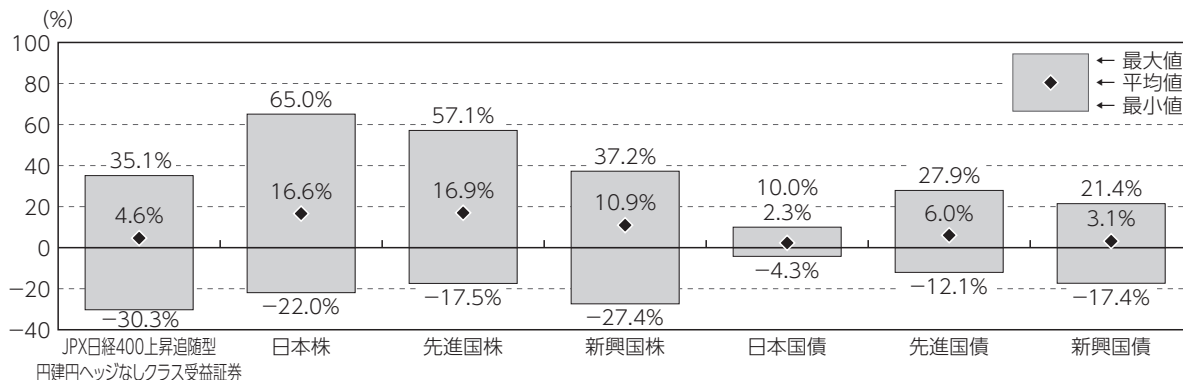
円建 円高ヘッジ・円安追随クラス受益証券



JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラス受益証券



JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラス受益証券



(出所) 指数提供会社のデータを基にアンダーソン・毛利・友常法律事務所が作成

※ 全ての資産クラスがサブ・ファンドの投資対象とは限りません。

※ サブ・ファンドの運用開始日が2015年1月16日であるため、サブ・ファンドについては2016年1月から2018年8月の、また他の代表的な資産クラスについては2013年9月から2018年8月の5年間の、各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、サブ・ファンドの騰落率の計算における各月末の受益証券1口当たり純資産価格については、取引日(評価日)ベースの数値を用いています。

※ このグラフは、サブ・ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

* 各資産クラスの指数

日本株 … 東証株価指数 (TOPIX) (配当込)

先進国株 … MSCI-KOKUSA I 指数 (配当込) (円ベース)

新興国株 … MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込) (円ベース)

日本国債 … JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (日本) (円ベース)

先進国債 … JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (除く日本) (円ベース)

新興国債 … JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド

※ 新興国債の指数は、各月末時点の為替レートにより円換算しています。

《ファンドデータ》

【サブ・ファンドの組入資産の内容】

● 組入上位資産

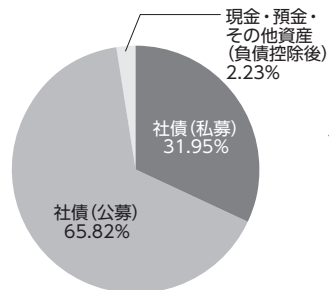
(組入銘柄数: 40銘柄)

(2018年4月末日現在)

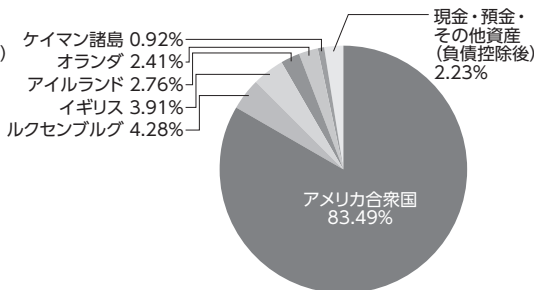
上位保有10銘柄	組入比率
CTP TRANSPORTATION PRODUCTS LLC / CTP FINANCE INC	4.60%
NGL ENERGY PARTNERS LP / NGL ENERGY FINANCE CORP	4.58%
GENWORTH HOLDINGS INC	4.40%
DCP MIDSTREAM OPERATING LP	4.34%
COOPER TIRE & RUBBER CO	4.02%
EMC CORP	3.94%
CEVA GROUP PLC	3.91%
DYNEGY INC	3.88%
ROCKIES EXPRESS PIPELINE LLC	3.82%
AMERICAN AIRLINES GROUP INC	3.31%

(注) 組入比率は純資産価額に対する当該組入資産の評価額の割合です。以下の各グラフも同様です。

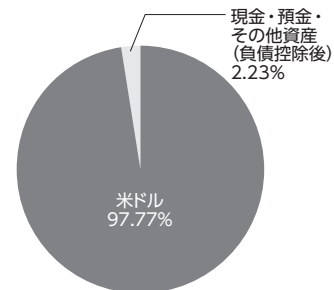
● 資産別配分



● 国・地域別配分



● 通貨別配分



(2018年4月末日現在)

(注1) 当期末の組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

(注2) 上記の比率は、サブ・ファンドの純資産価額に対する当該資産の金額の割合を四捨五入して記載しています。したがって、合計の数字が100%とならない場合があります、またサブ・ファンドの財務書類に記載された数値と異なる場合があります。

【純資産等】

第3期末			
	純資産価額	発行済口数	1口当たり 純資産価格
米ドル建 米ドル高 円安追随クラス受益証券	5,391,040.25米ドル	52,181口	103.31米ドル
円建 円高ヘッジ・円安追随クラス受益証券	1,298,849,823円	131,143口	9,904円
JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラス受益証券	261,744,353円	21,844口	11,982円
JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラス受益証券	833,805,633円	71,146口	11,720円

(単位:口)

第3期中			
	販売口数	買戻口数	発行済口数
米ドル建 米ドル高 円安追随クラス受益証券	0 (0)	21,730 (21,730)	52,181 (52,181)
円建 円高ヘッジ・円安追随クラス受益証券	0 (0)	42,910 (42,910)	131,143 (131,143)
JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジクラス受益証券	0 (0)	20,894 (20,894)	21,844 (21,844)
JPX日経400上昇追随型 円建円ヘッジなしクラス受益証券	0 (0)	76,362 (76,362)	71,146 (71,146)

(注) ()の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済口数です。